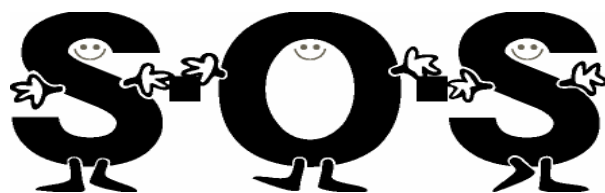


vol. 116通信 (平成22年4月10日発行)



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス  
愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036  
代表TEL：(0567) 26-3921  
FAX：(0567) 26-3922  
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

《明日があるさ…/ナイス・デイ》

“春に3日の晴れなし”の言葉通り、天候がコロコロと変わるこの季節、お花見の計画も天気と風に振り回されがち。「公園でお花見をしながらご飯を食べよう！」とシートやテーブル、座布団等を持って出かけたものの、春風の強さに「やっぱり帰って食べようよ…」と皆の意見が一致し、1時間弱で帰ってくることに。「勇気ある撤退だった」と帰宅後笑って話す利用者さん達。その時の状況を判断し、無理や無茶をせず、次に楽しみを伸ばすのも、小人数のデイならではの対応かも。



《はじまりました！/ナイス・キッズ(託児・学童保育)》

泥んこ遊び、虫とり、追いかっこ！  
子供たちは遊びの天才！  
毎日毎日、子供たちは大人が予想もしない遊び方を考え、元気に走り回っています。見ていてハラハラすることも多いけど、見守り重視でいるからこそ個性を発揮できる子もいます。子供達一人ひとりと向き合いたい。その子の可能性を伸ばしたい…。



子供達の成長が楽しみです。  
宜しくお願ひします。

対象児童：年長から  
時間：13:00～19:00  
詳しくはお問い合わせを

(保育士・若山)

《自立支援/ナイス・ケア》

トイレでの排泄介助で、お尻を拭こうとしたとき「自分で出来ます」と言われた。その瞬間、ハッとした。

自分に置き換えて想像をすると、とてもデリケートな場面である。恥ずかしさも含め、やれることに対して手を出されそうになったときの発言として考えれば当然だった。トイレで、立ち上がりの時だけ手を貸して欲しかっただけなのに、お尻まで拭かれそうになった…と利用者さんは感じたかも知れない。必要以上に手を出すのは利用者さんの能力を無視した一方的で失礼な行動だった。今回のことは、利用者さんの体調が悪い時の状況が改善されているにもかかわらず、つい状態が悪いときのように関わってしまったための気付きだった。ヘルパーとして、訪問した際、常に、その日・その時の状態を見極めながら関わるよう、その配慮こそ、自立支援に繋がっていくものだと改めて気付かせてもらった。

《看護師コーナー/バイタルサインの一つ、脈拍について③》

私は今、妊娠6ヶ月。よく胸がドキドキして息切れを起こすし、定期受診の時、緊張して脈拍が100回/分くらいになる。熱が出る時も脈拍は増える。生理的な物と分かっているけど、不安になる。その不安が更にドキドキを止まらなくさせるから困ったもの。

「脈」とは心臓から押し出される血液の拍動が血管に伝わって感じるもの。心臓は血液を送り出すために1分間に60～80回、規則的な収縮を繰り返している。「不整脈」とはこの規則正しい脈の打ち方がおかしくなり、速い脈(頻脈)や遅い脈(除脈)などが含まれる。異常な脈(不整脈)かどうか…「何もしていないのにふわっとする」「胸の痛みがある」「気を失う」とか…何か脈以外に他の症状がないか。具体的にあげると脈拍数が40回/分以下で息切れを感じる時や突然始まる動悸で、脈拍数が120回/分以上で突然始まり、突然止まる、または全く不規則なもの。ただ、知っていて欲しいのは不整脈の原因として最も多いのは、年齢に伴うもの(年を重ねるにつれ少しずつ不整脈は増加)や体質、生活習慣からくるもの(ストレス・睡眠不足・疲労)である。つまり誰でも起こりうるものであり、病的な不整脈であることは意外に少ない。何かおかしいと感じたら、まず深呼吸。息を大きく吐くと脈は遅くなる。脈拍が120回/分以下で規則正しく打っていれば大丈夫と言いついて聞かせて落ち着くこと。40回/分以上120回/分以下を目安に脈拍数とリズムをみる。あとは、人の脈を測って比べてみると楽しいかも。(T)

老いの姿から学ぶ～子供の力～愛宕の家の日々より

要介護1のTさんはヘルパーの付き添いで近くのスーパーへ買い物に出かける。自分の好きなおやつと一緒に「坊にやるわ」と子供向けのお菓子を買う。愛宕の家では、いつとなく子供の姿がある。時には大声で泣き、「うるさい！！」と怒られ、時にはTさんの部屋へお邪魔して手土産をもらってくる。子供と接する時のじいちゃん・ばあちゃんは素直に優しい眼差しになる。また、認知症の人は自分の孫の名前で呼び、子供なりに徘徊する人の行動を見守っていて「〇〇さんが外に出て行っちゃうよ」とスタッフに報告してくれる。

親から子へ、子から孫へと血のつながりはなくても、命をつなぐ掛け合いは、喜怒哀楽という感情を伴って、互いの日常生活を豊かにしてくれる。核家族が多くなり、老いの姿を知らずに育つ子供が多い。施設に入り、自分の孫やひ孫の顔もなかなか見られなくなっている、じいちゃん・ばあちゃん達…。子供が一人加わるだけで入居者の目が輝き、誰もが子供に声を掛け、見守ろうとする。子供の存在感とは、何と大きなことか！スタッフのどんなサービスよりも高齢者を生き活きさせる力を持っている。

S・O・Sでは、“ゆりかごから墓場まで”と言える位の血縁を超えた大きな家族が生まれてきていると思う。

この4月、スタッフの子供3人が新一年生になり、下校後の学童保育を自社内で始めた。結果、最近のS・O・Sの空間は何となく賑やかになっている。働く母親の姿を横目に見ながら、核家族では有り得ない異年齢集団と多世代間の影響を受けて育つ子供達は、たくましい未来社会の原動力になるはずである。賑やかな子供たちの声が、愛宕の家の住人にも何らかの生命力を吹き込んでくれることを期待したい。(I)

《入浴①～「風呂は嫌」がきっかけ～/ナイス・デイ》

気持ち良く、安全に入浴して頂くにはどうしたらよいか。利用者さんが納得できる入浴に近づく為に出来ることは何か。今月から12月まで、このコーナーを通じ入浴について様々な視点で見つめていきたいと思ひます。

デイでは「家で寝る前に入る」と言うNさん。でも、実際には入らないからご家族はデイでの入浴を希望しています。体操や散歩には参加するのに、お風呂だけは「入らん！」の一点張り。無理に誘っても「嫌だ。やめてくれ！」と大きな声で拒否される。どう声をかければ良いのか未だ手探り状態。ふいに誘って入浴すれば「気持ちええなあ」と笑顔に変身。…気持ちを掴むタイミングが難しい。

《運営懇談会/愛宕の家》

年2回、愛宕の家では運営懇談会を開催しています。この会は愛宕の家に関わる方々が顔を合わせ、意見を交わす場。ご家族同士が話をしたり、スタッフが日々感じていることを話すなど、全員がざっくばらんに本音で話せる機会です。3月に開催された懇談会では、家族、ケアマネ、職員等の6名が参加。入居者さんの日常生活や体調、高齢者を取り巻く現状や今後…様々な話題が出ました。

愛宕の家での最期を希望される話もありました。地域における施設としての愛宕の家の在り方、求められる対応について、責任の重さをひしひしと感じています。



《移行時の難しさ/ナイス・ホーム》

一人暮らしのYさん。家族は身体能力を考えて施設入所を検討していましたが、生まれ育ったこの地域で暮らしたいと入所を拒否する本人を前に、家族が選択したのは小規模多機能居宅介護でした。この制度を使うには、これまで関わってきたヘルパーやデイサービス、さらにはケアマネさんとの関係を絶つことになってしまう。(慣じみの関係重視の制度なのに、理不尽ですが)それでもYさんのように在宅生活を続けたい場合、短時間の安否確認や臨機応変なサービスを利用可能にするこの制度は、長い目でみると有意義。色々な事業所の方に担当利用者さんの小規模利用について相談を受けるとき、「もう少し状態が悪くなってから…」との言葉が多くでる。今回のYさんの例で思った。悪くなってから、分からなくなってしまう移行では、慣じみの関係構築は難しい。必要だと思うなら「まだ早いかも…」と思うくらいの時期に移行してほしい。

《編集後記》

先日、田舎から手作りの草餅が届きました。ヨモギの香りに田舎のことや桜の時期のことを思い出し、同時に母や祖母の料理が食べたくなりました。味覚や嗅覚は心との関係が密接だと聞いたことがあります。食べ物の味、香り(匂い)は、昔を思い出し幸せな気持ちになれる要素もあるそうです。食べ物が与える力って偉大です。(M)